

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時10分）

---

◇ 深澤 守君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、深澤守君。

（1番 深澤 守君 登壇）

○1番（深澤 守君） まず、最初に、長嶋町長、就任おめでとうございます。

通告のとおり壇上より3つの一般質問をさせていただきます。

1. 松崎町の未来図について。2. 経済振興について。3. 行政についてです。

1. 松崎町の未来図についてでご質問いたします。公開討論で町長を船に例え、海図もないGPSもない目的地を示されない船長のいる船は難破してしまうと語っておられました。

各世代で日本は池田総理の所得倍増、三種の神器が欲しい、良い大学、一流企業に入社できれば豊かな生活ができると共通認識としての目的がありました。

先日ゴールドマン・サックスが600人いた証券トレーダーを2人に、みずほ銀行が1万数千人規模の人員削減をしだすなど、AIの進歩により社会環境が激変し、ブータンやデンマークなど経済的豊かさだけが幸福ではないという国が注目されるようになり、各個人の幸福に対する考え方も多様化しております。

長嶋町長就任の初めての議会において一番大切な松崎町の未来図、町民満足度の高い町とはどのような町か。実現するために必要な重要な施策はどのような施策かをお答えください。

2. 経済振興について。観光業の衰退により地域経済が停滞し、若年層の流出が加速、少子高齢の町になりました。移住者の増加、若年層の流出を防ぐのには、地域経済の再建が絶対条件だと思っています。

①農林水産観光の一体推進による経済活性化を公約に掲げており、町長が陣頭指揮を執ることになると思いますが、現在各団体があまりまとまりがなく、非効率的に町の活性化を行っているように思います。DMOや行政版持ち株会社等の各団体が共通認識のもとで経済の活性化を行う仕組み作りはお考えですか。

②先日設備関係の人に話を伺いました。現在ほぼ新規の設備投資はない。経営者は設備が壊れた時は自分の年齢を考慮し、廃業するか、設備を更新することを考え、廃業を選択することが圧

倒的に多いそうです。

現在民間には設備投資をして経済を発展させる力はほぼありません。明治維新や戦後、民間に力がなかった時に積極的な官による積極的な低金利投資等による優遇政策により産業が発展しました。現在でも海士町のキャスシステム導入による白イカ、ブランド柿はるか都市圏への販売、邑南町のイタリアレストラン開店、料理学校の開設など行政による積極的な投資によって町の活性化の起爆剤になりました。

松崎町の現状では民間の設備投資はあまり期待できません。高齢者の新規参入促進を含めて、三聖苑の加工場の拡充と行政が積極的に産業育成のための投資をしていくお考えはありますか。

③商店街の復活、再生の具体的な施策をお答えください。

3. 行政についてお尋ねします。町長と職員が一生懸命町民のために働く組織とはどういう組織ですか。総合計画等では、行政と町民が施策実施にあたって協働していくとありますが、行政の役割、町民の役割はどのようなものでしょうか。

以上、壇上より一般質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 深澤議員の一般質問にお答えしたいと思います。

町長就任最初の議会で松崎丸船長として町民の皆様が幸福に暮らせる目的地とはどういうことでしょうかということでもあります。

先ほど渡辺議員からの同様のご質問に答えたように、町民全体の所得が増えるということと、「さくら葉香る花とロマンの里」に住んでいることを誇りに思える町にしたいということが私が思い描く松崎町の姿でございます。

町民満足度の高い町、物と心が豊かな町、物心両面の豊かな町を目指してゆきたい。これが私の目的地でございます。

具体的な施策については、先ほども渡辺議員の時に言いましたけれども、議員の皆様方にもいろいろとお諮りしながら進めてまいりますけれども、高齢化率が大幅に増加しても住みやすい町と感じていただけるような町にするべく全力を傾ける所存でございます。

2つ目の経済振興についてでございます。農林水産観光業の一体推進による経済活性化を公約に掲げており、町長が陣頭指揮を執ることになるとは思いますけれども、DMO等の各組織を一体化させる仕組み作りのお考えはあるかというような質問でございます。

先ほどの藤井議員の質問にもお答えしましたが、観光は全ての人に恩恵を与える総合産業であると考えています。

観光客を増加させることは、観光業はもとより農業、水産業、商業、飲食業などの収入増につながることから、農林水産業と観光業の一体推進による経済活性化を図ってまいりたいということとであります。

そのうえで、町独自の取り組みもさることながら、伊豆半島の市町が連携し、伊豆は一つのもとに誘客活動を進めることが交流人口を増やすうえで重要なことから、関係7市6町が平成27年度に「美しい伊豆創造センター」を設立し、DMO事業などを展開しているところでございます。

深澤議員からは、松崎ならではのDMO組織を組織したらどうかという質問だと思いますが、それについても商工会だとか、観光協会、それから町の役場の企画等が有機的に結びついていくと、人を派遣するだとか、そういったことも含めて、まだ決定はしておりませんが、そういうようなことをやって、効果的なものが作られていかなければいけないなと思っております。

2つ目、明治維新や戦後、民間に力がなかった時に積極的な官の投資や優遇により産業が発展したが、同じような政策のお考えはあるかという質問でございます。

人口減少対策において産業振興を図ることは重要であると認識しております。そのため、予算は、総花的ではなく重点事業に集中した傾斜配分とすることが必要であると考えております。

確かに、議員がおっしゃられた明治時代の殖産興業で富岡製糸場の例をみるまでもなく、官が業界をけん引した、そういうことがございました。

松崎町がどういう状況であるかといいますと、民間がおきる時その産業が有力であるぞという時には、確かに町としても応援をするべきだと思います。

つまり、インキュベーター、孵卵器、保育器に入っているものを公的資金で・・・、あるいはその援助を官が援助をしていくということは立ち上がりを支援をするという意味で非常に貴重だと私は思っております。

ただし、それが立ち上がってきた時点である程度の期限を区切っていかないとどうしてもそれが依存体質というものが残るわけでございますので、あくまでも官は自分の立場をわきまえて、先ほど申し上げました民間の活力を奪うようなことがあってはいけません。クラウドイングアウトになってはいけませんと私は思っております。

あくまでも一定期間を補助するというサンセット条項のようなものでやっていきたいと思っております。

松崎町の現状を分析し、課題解決のためにどのような分野に、どの位の予算が必要なのかを平成30年度予算編成の中で検討してまいりたいと思います。

また、民間活力を促進するうえからも事業支援は必要であり、先ほど申し上げましたとおりこ

れまで商工業者の経営の安定化を図るための利子補給制度や産業・雇用創出、移住・定住促進を目的とする地域活性化事業支援補助、町内事業者の育成を図る住宅改修補助を実施してきたところでございますが、今後も積極的に取り組んでいる事業者などに対しましては、町としても十分な支援をしてみたいと思っております。

それから、深澤議員の最後から2番目の質問ですね。商店街の活性化について具体的な施策をお答えくださいということ。

全国各地で商店街が衰退し、空き店舗化が進むなか、当町においても同様の状況となっておりますが、町では商工業の振興、商店街の賑わいづくりのために支援を行っております。

松崎町の特産品のブランド化や地域商業の景気対策としてのロマンシール協同組合への事業支援、商工会の俳句交流館では、健康マルシェの開催や街なかギャラリーとして町内工芸品作家の展示販売や海藻おしぼり展、コンサートなどが行われ、街なかの賑わい創出に寄与しています。

なお、商店のなかには地域住民への販売だけでなく、観光客もターゲットにした商品開発を行い、効果を上げている事例もございます。

これらの取り組みに加えて、町では商工業者の経営の安定化を図るため各種融資資金の利子補給を行うとともに、伊豆まつざき荘や学校給食などにおける地元調達、ふるさと納税の返礼品において特産品を積極的に活用し産業振興を図っております。

商店街の活性化は、町の行政だけでなく商工会、観光協会、事業者等と連携し行っていかなければならないことと考えます。

それから、病気になった患者さんは自ら治ろうとする強い意志がなければ、どんな名医がいたとしても治らないと言われております。最低限個々の商店のがんばり、これは絶対的に私は必要だと思っております。

次に、行政について。町長と職員が一生懸命町民のために働く組織とはどうゆうものなのかという質問であります。

町長と職員が一生懸命町民のために働く組織というのは、誰が考えたって当たり前のことでもあります。これについて説明する余地は私はないと思っております。

12月14日の就任式では、私は職員に、全員に前例踏襲、問題先送り、責任回避は許さないと言いました。上司、部下のけじめをしっかりとつけることを話すとともに、町の職員がどのように町民に接するべきかも話をいたしました。

職員も町長の命により働くことが住民への利益に繋がるものであることを理解してくれることと感じております。

それから、町長と職員が一生懸命町民のために働くことによって、町民の所得が向上し、福祉の増進が図られ、町民満足度の高い町が実現されるものと私は信じて疑わないわけでございます。

以上でございます。

○1番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○1番（深澤 守君） 最初に、町民満足度の問題として、高齢者も安定して住めるまちづくりという話をなさっていましたが、先日あるお年寄りの方から・・・、多少自己負担で自分たちが老人会活動をしていかなければならない。もしくは、役員さんが集まらないということで、老人会を解散していく、老人会活動ができないからという話をしておりました。老人会というのは、意外と町の中にお年寄りが出る機会をつくっているのではないかと・・・、その辺の活動がうまくできていないと老人がいきいきして満足のできるまちづくりというのは少し難しいのではないかと思います、その点につきましてどうお考えでおられますか。

○健康福祉課長（新田徳彦君） 老人クラブにつきましては、現状、いま9つですか、クラブがございます。かつては十何クラブあったわけですがけれども、やはりその組織の担い手がいなくなったり、また、価値観の違い等によって少なくなってきているというような状況があります。とはいえ、いま議員がおっしゃったようにやはり社会参加という意味では、老人クラブというのは重要な役割を担っていると思いますので、我われといたしましては、少しでも現状を維持するような形で老人クラブの支援をしていきたいと考えているところでございます。

○1番（深澤 守君） 前に、テレビで老人クラブに行くと、輪投げをやったりとか、童謡だけを歌う話をしていまして、お年寄りが幼稚園と同じようなお遊戯みたいな形でやっていくという形になります。別の町は、あるところは、マージャンをやったりとか、そういうような形で別な形をとってやっていて、そのところはある程度出席率じゃないけれど、お年寄りが楽しんでやっているという形を取っているところもあるので、そういうような形でもっていくということはお考えでしょうか。

○健康福祉課長（新田徳彦君） いま、現状は輪投げ大会ですとか、いろんな催し等はやっているつもりではございますけれども、まだまだやはり高齢者が増えている中で、そういった企画というか、そういったものを行政側から仕掛けていくということも大切かなと思っておりますので、ご意見を参考にしながら今後にかしてまいりたいと思っております。

○1番（深澤 守君） 次に、経済の活性化の方に質問を移らせていただきます。

先ほど町長が伊豆の連合体で町の観光の活性化をという話をしていたんですが、先ほどの交流

人口の話をしていて思ったんですが、松崎町がだいたい 32 万人、逆にその西伊豆町がいま 80 万人ちょっとくらい、交流人口があります。南伊豆町が 60 万人くらいだと思うんですけど、例えば、松崎町と沼津、2 時間の違いでしたら、逆に来ないと思うんですけど、伊豆の堂ヶ島と松崎を距離的に比べたら車で 10 分位の距離があるわけですね。逆に考えると、堂ヶ島というのはあまり見るところが・・・、こういうこと言ったらおかしいんでしょうけれど、堂ヶ島くらいであまり遊びに行くところがない。逆に松崎町は文化その他のものがあるって、たくさん見るところがある。逆に堂ヶ島は宿泊施設はあるけど、松崎は宿泊施設がないという形になっていますので、例えば、10 万人とか 5 万人とかという堂ヶ島に来ているお客さんを松崎に誘致することというのは比較的安易、簡単ではないかと思うんですが、その点についてどう思われますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 例えば、いま交流人口の増という形でご質問がありました。統計的数字を申し上げます。

まず、平成 28 年度の松崎町の観光交流客数は 32 万 2000 人でございます。前年比 3.6 パーセントの増ということで、特にこの中で宿泊者について申し上げますと、平成 22 年度以来 10 万人を超えまして、前年比 7.4 パーセントの増という形で、28 年度はなっているところでございます。

それから、先ほど西伊豆、南伊豆の数字を申し上げましたけれども、やはり伊豆地域、沼津から下の伊豆地域全体で 4500 万人観光交流人口があります。昨年より 100 万人増えています。そういった伊豆地域にお客さんが来ている 4500 万人、この流動人口をいかに南伊豆の方、西伊豆の方、松崎の方にもってくるかというような形での、ある意味戦略が必要だろうということの中で、先ほど町長が回答しましたけれども、美しい伊豆創造センター、7 市 6 町で広域的にやっていますけれども、ここで DMO という観光広域の事業を行っています。

この DMO というのは、要するに、画一的なことは 7 市 6 町でやろうということではなくて、それぞれの市町の独自性があります。それぞれの市町でそれぞれの独自性を持った観光商品だとか、地域資源を出して、そこで DMO を美しい伊豆創造センターで観光プロモーションしてもらおう、いわゆる情報発信をそこでしてもらおうとかということで、結果的に伊豆地域あるいは松崎町とか、そういったところにお客さんを入れ込みましょうということで美しい伊豆創造センターで共同でこの DMO 事業を行っているということでございます。

○町長（長嶋精一君） いま深澤議員が申されましたけれども、私は、西伊豆町の交流人口というか、それに対してわが町は少ないわけですけども、松崎町の交流人口は、私の方で工夫によって増やしていくということ、要するに、西伊豆町からこっちに引っ張って来るという考え方は持っていないんですね。というのは、西伊豆町は西伊豆町で増やしてもらって結構で、わが方は・・・、

その根源的な理由というのは、やっぱり宿泊先数、宿泊する民宿とか旅館の絶対数が少ないのではないかと私は考えております。

したがって、あくまでも西伊豆町は西伊豆町でがんばってもらって、子どもは子どもでそういう宿泊先数を増やしていくような算段をして、西伊豆全体が増えていくということになれば理想だなと思っております。私は。以上です。

○1番（深澤 守君） 先ほど町長の方が、宿泊を増やしたいと述べられているんですが、現状は結構厳しいのではないかと・・・、なぜかと言いますと、松崎町は意外と海、山、川その他のものはたくさんあると思うんですが、それを遊ばせる手段を提供できないのではないかと、例えば、前に東大の先生が富貴野山の方に入られた時に1日出てこなかったそうです。特殊な苔があったりとか、学術的なものがすごくあって、1日では回り切れなかったというように、海、山、川のレジャーその他のものを提供して、松崎に来たら1日じゃもったいないよね。2日～3日いなければ、これは遊び切れないうねというような形ができれば最高だと思うんですけど、グリーンツーリズムの活動を通してまだ現状その態勢が整っていないのではないかとと思いますが、その点についてどう思われますか。

○企画観光課長（高橋良延君） いま深澤議員の方からグリーンツーリズムという言葉が出ました。松崎町では平成8年度から静岡県で一番早く立ち上げたわけですがけれども、この都市住民との交流を目的としたグリーンツーリズム事業を推進してきたものでございます。

特にその中でグリーンツーリズム推進協議会という協議会を発足いたしました。この協議会については、先ほどDMOと言いましたけれども、あらゆる団体ですね。松崎の方では町内の各団体、行政も入っていますし、観光事業者も入っています。農林漁業者も入っています。商工業者あるいは生産者等々が入りまして、その中で協議会を組織して、松崎町に来ていただいて、そこで体験していただくと・・・、そういった着地型の商品と申しますか、それを協議してきたところであります。

現在では、町内で18の体験事業を行っているところでございますけれども、それぞれの地域独自の取り組みというところもありまして、先ほど町長の回答でちょっとありましたけれども、岩地地区での修学旅行ですとか、石部の棚田オーナー制度等々はこういったグリーンツーリズムの一つの事業という位置付けになっているところでございます。

こういった協議会の中での話し合いはしているところでございます。

○1番（深澤 守君） 先ほどグリーンツーリズムの推進事業を行っているという話だったんですが、何年か前にグリーンツーリズムの推進事業でボランティアガイドの講習会みたいなものをや

ったんですが、その前の全体の話は、グリーンツーリズムとは何ぞやという話から始まっていることもあるような感じで、そのグリーンツーリズムに対する理解だとか、それを活用して何とかしてあげようとか、気概がないとか、それに対するメニューづくりもなかなか進んでいないようには思われるんですが、飛騨高山のどこかの町の現状、名前は忘れてしまいましたけれど、ホームページで公開しているんですね。びっしりメニューがあるわけですね。松崎のグリーンツーリズムのメニューを見ると、ちょっと貧弱というか、そのような感覚も持つんですが、これからももう少し増やしていくとか、業者に投げかけて提案してもらおうとかというお考えはあるでしょうか。

- 企画観光課長（高橋良延君） 当然、現在の18の体験事業ということで終わりということでは毛頭考えておりません。当然魅力ある商品といったものを作り上げたりとか、まだまだ埋もれている地域資源とかがあると思いますので、そういったものについて、こういったグリーンツーリズムの協議会等で企画し、それを実践していくということであると思います。

そもそもグリーンツーリズムは、どういった定義だということがありましたけれども、平成8年の時に、立ち上げた時に、町民の皆様方にもお示ししたと思いますけれども、松崎町の当然海、山、川、自然あるいは文化、歴史、産業、農業とか漁業等を含めた産業を活用した体験型の観光地を目指す、そこに長期滞在型・・・、松崎町に来ていただいて何日かそこで滞在して、温泉も利用していただきながらということで長期滞在型の観光地を目指すという中で、グリーンツーリズムを提唱したということでございます。

- 1番（深澤 守君） ぜひ、松崎町は海、山、川、たくさん・・・、また温泉もあり、絶対的に観光地としては発展する余地のたくさんあるところでございますので、ぜひ企画観光課長筆頭に、観光育成にがんばっていただきたいと思います。

次に、先ほど町長が、官は民間の圧力にはなってはいけないというお話をなされたと思うんですが、やはり・・・、松崎町のふるさと納税の品目を増やすにしても、やっぱり多少加工場を造っていただいて、一般参入をする形で品目を増やすということもあるとは思いますが、その辺について、町長、どのようにお考えでしょうか。

- 町長（長嶋精一君） 私が言っていることは、まず何でもその事業者が「おれはやるんだ」という意欲がなければ、まずそれがなければ、強い意欲がなければ、どんなに手当をしてもなかなか立ち上がらないということを言いたいわけでありませう。

官があくまでも民間を圧迫するということは、それは経済の歴史であるわけでございますけれども、松崎町がそうなっているということを行っているわけじゃないんです。世間一般的にある



程度育ってきたら、あくまでも手を引いていくということでない、ほかのやはり産業が勃興する場合がありますから、そちらの方に力をやっていくということが大事だと思います。

それから、深澤議員がいまおっしゃった・・・、一つ参考にしたいなと思うのは、工場ということを行いましたけれども、私が考えているのは、その工場というのは、特に絞った形でないと・・・、どんな農作物でもいいという形ではなかなかうまくいかないのではないかと、私の考えていることですよ。

それについてはまだ私も町長になりたてでございまして、一概に言えませんが、例えば、私が、従来から考えている桜葉については、ある漬け元さんからそのような意見が出たことも事実でございまして。

したがって、それをやるということではないんですけれども、これから慎重に生産体制を構築する中で、プレハブのような建物を造って、そこに桜葉の製品を集約してやっていく、漬け元業者も協力しながらやっていくことは考え得ることではないかと私は思っております。

しかしながら、これをやるということじゃなくて、生産体制を構築しながら、そういうことも視野に入れてやっていきたいなと思っております。

○1番（深澤 守君） ずっと前から何かあるごとに議会に6次産業化、6次産業化と必ず出てきます。ほかの町では多少成功しているというか、三島のようにすごく発展している、6次産業化がうまくいっているところもあります。

山の方の人たち、岩科地区だとか、中川地区の人たち、農業をやりながら味噌を作ったりとか、漬物を作ったりとかしている人たちもたくさんいます。その人たちを商品化するのには何が必要かということ考えたことがある。

いま保健所へ行きますと、国際基準にも似たようなHACCP（ハサップ）とか、そういう基準を求めることがあります。また売る時にシールを貼ったりとか何とか結構規制があります。その規制をくぐって販売しなければならない。それをお年寄りの人たちができるか、まずあきらめてやらないパターンが多いと思います。ましてや、いま真空パックみたいなものをやらなければ遠くへ売れない。売り方も難しい時代になってきて、昔よりも設備投資をしなければ、商品化はなかなか難しいのではないかと。

その時に、じゃあ、70～80歳のおじいちゃん、おばあちゃんたちがそれを設備投資してやるか、やらないと思う。その意味でも、加工場でそういう規制に対応するもの、設備が整ったものがあれば、そういう技術や知恵を持っているおじいちゃん、おばあちゃんたちもそこで作って物売を。それを、例えば、まつぎき荘の朝食で食べてもらって、それを土産に買ってもらうと

というないいい流れができるんではないかと思いますが、その点についてどう思われますか。

○企画観光課長（高橋良延君） ただいまの6次産業化というお言葉が出ました。この6次産業化というのは近年よくうたわれているところでありますけれども、6次産業化だからといって何でもかんでもある商品を全て6次産業化にということではないと思います。少なくとも松崎町で魅力ある農産物とか商品ですとか、そういったものを精査したうえで、それが6次産業化で結果的に販売の強化に繋がると・・・、増資に繋がるといふものでなければならぬということでは考えています。

それから、全て農業者が6次産業化を全て行うことではないと思います。生産、加工、販売という、これが6次産業化・・・、1次産業、2次産業、3次産業を合わせたものということではなされていますけれども、農業者がそれを全てやるということはなかなか困難だと思いますので、そのあいだでやはり加工ですとか、あるいは販売元ですね。そういったところは逆にそういった6次産業化までのシステムを作り上げるとか、そういったこともこれは可能であると思いますので、そういう面からいけば、農業者は生産をしてそこに上げるということだけで済むと思いますので、それはそれぞれやり方があるのかなと思います。

ただ、その加工場を造って生産、6次産業化の製品づくりとかというのもありましたけれども、こちらは先ほど言ったように、何でもかんでもということではないと思いますけれども、現在道の駅に作業棟・・・、先ほど深澤議員がおっしゃいました作業棟がありまして、中川地区の女性グループが休日とかに使用して、活用しておりますけれども、やはり農産物の加工場を造るにあっても、果たしてそういったニーズがどのくらいあるのかなど十分な調査をしたうえでないと、そこはしたうえで検討をしなければならないのかなと思います。

○1番（深澤 守君） 例えば、そのニーズがあってやりたいよという人がたくさん出てくれば拡充してやっていくということでもよろしいでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） それは検討していくということでもあります。

○1番（深澤 守君） 次に、商店街の話で質問させていただきます。

先日ある商店の人から商店街の外灯がちょっと危険だということで、何とかして欲しいという話もありました。

現在商店街については、ゼロではなくて、ほぼマイナスの状況ではないかと・・・、再生するにはすごく・・・、インフラを最初に撤去して、それから新しく作り直すという形にはなると思いますが、その商店街を活性化させるには、まず人に歩いていただかなければならぬというものもありますが、松崎町のまつぎき荘から長八美術館までの道すがらの回遊ルートみたいなものと

いうのを・・・すみません。これはなしにしてください。

商店街の活性化でやはり後継者の問題が出てくると思うんですけど、元銀行員の町長の立場・・・、元銀行員として、商店街の商店の後継者になるべく・・・、商店街の店主さんが、自分の子たちを後継者にさせたいと思えるような商店とはどのようなものか、お聞きします。

○町長（長嶋精一君） 元銀行員であろうがなかろうが、深澤議員はどう思いますか。

○1番（深澤 守君） 私は、一つ思うのは、自分が商店の二代目なんですね。一つ思うのは、親がまず継がせたくない。自分はこれだけ苦労したから、子どもはもっと楽に生活させたい。これが一つあると思います。

それから、これは、幸せなのか不幸なのかわかりませんが、選択する自由があるから・・・、親がやっていたものは子どもが継ぐというものは昔からあったんですけど、今は子どもがいやだったら継がなくてもいい、それに対する・・・、自分たちがやっている商店の魅力がないから継がないんだと・・・。

○議長（土屋清武君） 回答を求めているのか。

○1番（深澤 守君） 継がない理由はそれだと思います。

○議長（土屋清武君） だから、回答はいらないんですね。

○1番（深澤 守君） はい。

○1番（深澤 守君） 具体的に商店街の再生の計画をもう一度ご説明いただけますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 商店街の再生ということで、町長は回答のところでいろいろ申し上げました。

当然商店街の活性化は地元の方の招致ということと合わせて観光客、いわゆる町外からの方が商店街に来てのそういった消費ということを挙げております。

町長はいわゆる交流人口を増やすということが大変重要であると申し上げておりますけれども、こういった交流人口を増やすことで、商店街を含めて賑わいをつくり出し、そこに消費が生まれ、そして、それが収入、所得の増に繋がると・・・、またそれが消費に・・・、その方々に消費してもらおうということで、それが地域内循環という形で、お金がそこで回るということが、商店街の一つの活性化のもとになるのかなと思っています。

個別には、まつぎきブランドの特産品のブランド化ですとか、ロマンシールの景気対策等々への支援とか、あるいは商工会が俳句交流館ですか、そこでイベントをやったり、街なかの賑わい創出に寄与しているとか、そういった諸々のところはございますけれども、それと合せて町の方としては、地元調達です。まつぎき荘ですとか、学校給食等における食材、材料費とそういつ

た消耗品等の調達等々は町内でやっているところがございますので、そういったことも合せまして、複合的に商店街の活性化を図っていくということだと思います。

○1番（深澤 守君） 最後に、確認のためにもう一度、確認のためにお伺いします。

行政を行っていくうえでやはり協働という話がたくさん出てくると思うんですが、町民の役割と行政の役割はどのようなものか、お答えいただければと思います。

○総務課長（高木和彦君） 非常に難しい問題です。職員は、町長の下で町民の福祉の向上、先ほど出ましたけれども、所得の向上、福祉の向上にあたるのが職員の役割でございます。

しいて今の中で、町民の役割というお話がありましたけれども、私ども職員と町長が一生懸命やっているものでしたら、お任せいただきたいと胸を叩いて言えばいいんですけども、ただ、私ども職員も一生懸命やっていますので、そのような姿がご評価いただければ、全部ができるわけじゃないですから、町の方にもいろいろお手伝いをいただければなと思っております。

○1番（深澤 守君） 先ほども町長が語っていたように、意外と町の・・・、町民の方というのは町が何をやっているかというのを知らない部分がたくさんあると思いますので、ぜひ自分たちはこういうものをやっている。それからこういうことを考えているけど、町民はどう思うのかというような形を取っていただいて、町民の皆様と役場の皆様が心をつにしていっていい町がつけられるような体制をぜひ取っていただきたいと思います。

以上で一般質問を終わります。

○議長（土屋清武君） 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

---